

証券アナリスト 2 次 (2011 年対策)

アプローチ・セミナー

- 市場と経済の分析 -

TAC 証券アナリスト講師室

経済担当：小川

1. 「市場と経済の分析」の概要

- 従来の「経済」科目が、平成 20 年 (2008 年) 以降実施されている新プログラム試験から「市場と経済の分析」に変更された。
- 主な学習領域は、以下の通り。

マクロ経済学 (国際経済学を含む)

ミクロ経済学

経済事情

マクロ経済学は、新プログラム試験になっても中心的な学習分野になっている。中央銀行の金融政策との関係で出題されることも多い上、デフレなど時事的な要素が含まれることもあり、問題のバリエーションは豊富である。

ミクロ経済学は、新プログラム試験における最も特徴的な分野といえる。ゲーム理論と情報の経済学 (逆選択、モラルハザード) について、特に具体的な数値例を用いた問題に多くあたっておく必要がある。

経済事情は、現実の時事的な話題についての知識である。必ずしも協会通信テキストに基づいて出題される訳ではないので、対策が立てにくいところでもある。ただし、大問としては現実的なテーマ (例：日本の少子高齢化) を掲げていたとしても、実際の小問を解くのに必要な知識は、基本的な経済学の考え方であることが多い (例：ライフサイクル仮説に基づいて家計貯蓄率の動向を予想せよ)。

2. 新プログラム試験の出題実績

- 過去3回の新プログラム試験で出題された問題は、以下の通り。

第1回（平成20年）	配点ウェイト	10.7%（＝経済45／満点420）
------------	--------	--------------------

- | | |
|----------|--|
| 第1時限・第1問 | 経済動向分析
業況判断DIと物価上昇率、政策金利、イールドカーブ |
| 第1時限・第7問 | 金融政策とマクロ経済＋IS-LM分析
テイラールールに基づいて今後10年間の政策金利の方向を予想。 |
| 第2時限・第9問 | 複占市場とナッシュ均衡
クールノー・ナッシュ均衡となる各社の生産量を求める計算問題。 |

第2回（平成21年）	配点ウェイト	14.2%（＝経済60／満点420）
------------	--------	--------------------

- | | |
|----------|---|
| 第1時限・第1問 | マクロ経済と株式投資収益率
GDPと企業業績の差異、労働分配率と株式投資収益率の関係等。 |
| 第1時限・第8問 | 国際経済・金融市場の諸問題
米国の双子の赤字、グローバルインバランス、人民元改革等。 |
| 第2時限・第9問 | 為替市場介入
不胎化介入と非不胎化介入、IS-LM分析、投資戦略。 |

第3回（平成22年）	配点ウェイト	14.2%（＝経済60／満点420）
------------	--------	--------------------

- | | |
|----------|---|
| 第1時限・第1問 | マクロ経済
日本の貯蓄投資バランスと国債市場 |
| 第1時限・第7問 | ゲーム理論と情報の経済学
同時決定ゲーム、逐次ゲーム、貸出市場における逆選択問題。 |
| 第2時限・第9問 | マクロ経済と金融政策
AD-AS（総需要-総供給）分析、デフレと企業収益、
イールドカーブ、インフレターゲット |

3．試験対策

- 試験対策にあたっては、以下の2点に留意する必要がある。

協会通信テキストの内容が、必ずしもそのまま出題される訳ではない。
論述試験であるため、正解は一つとは限らない問題もある。

- 2次試験対策としては、1次レベル試験対策でも学習した、経済学の基本的なモデルの復習が必要である。それに加えて、2次で新たに登場するミクロ経済学や国際マクロ経済学の知識を足していくことが効率的であろう。
- 論述試験への対策も重要である。例えば、「IS-LM 分析で財政政策の効果を図示しなさい」というような問題であれば、解答は自ずと決まっている。しかし、「財政政策が効果をもたないケースについて説明しなさい」とあれば、書き方によっていくつかの解答が説明できる（例：クラウディングアウトが非常に大きい場合、財政赤字拡大に対して中立命題が妥当性をもつ場合、等）。
- したがって、まずは代表的な経済モデルの見方・考え方を一通り学習し、次に様々なパターンの練習問題にあたって論述試験の形式に慣れることが必要であろう。

以 上